

2018年2月1日
日本銀行北九州支店

北九州・京築地区の金融経済概況

(2018年2月1日)

(本件に関するお問い合わせ先)

日本銀行北九州支店 Tel 093-541-9111 Fax 093-512-1750

当資料は当店ホームページ (<http://www3.boj.or.jp/kitakyushu/>) にも掲載しています。



1. 総論

北九州・京築地区の経済は、緩やかに拡大している。

最終需要の動向をみると、公共投資は、堅調に推移している。輸出は、一部に国内向け出荷を優先する動きがみられるものの、全体として高水準で推移している。設備投資は、企業収益が改善するなかで、先行きの需要増加を見込む先が多いことから、増加している。個人消費は、厳しい冷え込みが続くなか、持ち直しの動きが強まっている。住宅投資は、底堅く推移している。

こうした中で、生産は、全体として高水準で推移している。雇用情勢は、引き続き改善している。

【前回との比較】

項目	前回	今回
景気判断	緩やかに拡大している。	緩やかに拡大している。
需要項目	公共投資	堅調に推移している。
	輸出	一部に国内向け出荷を優先する動きがみられるものの、全体として高水準で推移している。
	設備投資	企業収益が改善するなかで、先行きの需要増加を見込む先が多いことから、増加している。
	個人消費	厳しい冷え込みが続くなか、持ち直しの動きが強まっている。
	住宅投資	底堅く推移している。
生産	<u>自動車が一時的に減少しているものの、全体として高水準で推移している。</u>	<u>全体として高水準で推移している。</u>
雇用	引き続き改善している。	引き続き改善している。

2. 需要項目別動向

公共投資は、堅調に推移している。

12月の公共工事請負金額をみると、国・県等の発注分が増加したことから、前年比プラスとなった。

輸出は、一部に国内向け出荷を優先する動きがみられるものの、全体として高水準で推移している。

設備投資は、企業収益が改善するなかで、先行きの需要増加を見込む先が多いことから、増加している。

個人消費は、厳しい冷え込みが続くなか、持ち直しの動きが強まっている。

大型小売店（百貨店・スーパー・複合商業施設）売上高や量販店（ディスカウントストア・ホームセンター等）売上高は、化粧品が引き続き堅調に推移しているほか、季節食材や冬物衣料品等も伸長している。

乗用車販売は、一部自動車メーカーの生産調整の影響が残っているものの、堅調に推移している。

住宅投資は、底堅く推移している。

12月の新設住宅着工戸数は、貸家と持家を中心に前年比プラスとなった。

3. 生産

生産は、全体として高水準で推移している。

▽業種別生産動向

鉄鋼	高炉	自動車向けを中心に、生産は高水準で推移している。
	電炉	建設向けを中心に、生産は増加している。
化学		アジア向けを中心に、生産は堅調に推移している。
セメント		首都圏向け需要の拡大を背景に、生産は増加している。
住設機器		リフォーム向けを中心に、生産は高水準で推移している。
電気機械		海外向けを中心に、生産は大幅に増加している。
電子部品		自動車やスマートフォン関連を中心に、生産は大幅に増加している。
自動車		一部完成車メーカーが検査工程の改善と生産体制の立て直しを進めるなか、生産は回復基調にある。

4. 雇用

雇用情勢は、引き続き改善している。

12月の有効求人倍率は、1.62倍（前年比+0.20ポイント）と、前年を上回った。

5. 物価

12月の消費者物価指数（北九州市の生鮮食品を除く総合ベース）は、前年比プラス（+1.0%）となった。

6. 企業倒産

12月の企業倒産（負債総額10百万円以上）をみると、件数は10件（前年同月4件）、負債総額は7,908百万円（同644百万円）となった。

7. 金融情勢

12月末の実質預金は、前年比2.8%増となった（前月同3.5%増）。貸出は、前年比3.8%増となった（前月同3.9%増）。

この間、貸出約定平均金利（都銀・地銀・地銀Ⅱ平均、総合<ストック・ベース>）は、1.234%となった（前月1.236%）。

以 上